

【 2024 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 評価日 2024年 10月 24日

評価者	園名	聖隷こども園めぐみ
役職	園長	氏名 富永裕美

評価者	園名	市野与進こども園
役職	園長	氏名 鈴木勝子

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

年度初めに理念の共有化が行われ、職員が一人ひとりの子どもを尊重し愛情をもって関わっている様子が見られた。支援センターの利用も多く、地域の中でセンターの役割を果たしている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

子ども一人ひとりのやりたい気持ちを尊重し、保育が進められている。
レンタル布おむつを使用し、こまめに交換することで一人ひとりの子どもとの関りの時間を大切にしている。保護者にも子どもとのふれあいの必要性を伝えている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

会議などでマニュアルの共有化も丁寧に行われており、適切に対応している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

頂いた意見や苦情に対しては、丁寧に対応している。日ごろからの保護者への声掛けなど、信頼関係の構築を意識している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

看護師からの発信もあり、職員一人ひとりの意識も深まっている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

竜巻や不審者対応など様々な場面を想定し、職員が自ら考え判断し動けるよう訓練を実施している。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

園舎の経年劣化・老朽化もあり修理箇所は多いが、優先順位をつけて適切に対応されている。
園児の入園に関しても計画的に行い安定した運営がなされている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

正面玄関に植物のグリーンが多く飾られ、清掃も行き届いている。パート職員の環境に対する心配りが正規職員への刺激となっている。
保育室にも子どもが季節を感じられる環境があるとよい。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

乳児幼児共に、発達に見合った玩具を用意している。今あるスペースを有効活用し発達に則した環境を工夫されている。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

基本的な部分では保育目標を意識し保育されているが、4.5 歳児が混合クラスのため生活・あそびの細かい部分で個別に目を向け、必要な関わりを意識する必要を感じる。

【全体を通して】

全体的に穏やかな雰囲気での保育が進められている。職員が「子ども主体」を意識し寄り添う姿勢が見られた。職員それぞれが自分の役割を認識することで組織全体がまとまっていると感じた。